

あいち農産物生産流通レポート

平成19年1月号

情報サロン		
・「ふるさと農林水産フェア・秋・食と緑の収穫祭」が開催されました	(食育推進課)	1
地域トピックス		
・露地畑に「黄色い旗」	(東三河農林水産事務所)	2
東日本情報		
・野菜の消費拡大を目的としたイベントが開催されました	(東京事務所)	3
西日本情報		
・第1回愛知県加工用トマト拡大協議会の開催について	(園芸農産課)	5
フラワーページ		
・第49回全国カーネーション愛知大会について	(園芸農産課)	7
青果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)		8
・名古屋・東京市場における青果物の1月の見通し		9
花き		
・切花・鉢花の1月の見通し(県内市場)		21
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2006年10月)		25
関連指数		26

本書の内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所総務課物産情報グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

- 「ふるさと農林水産フェア・秋 - 食と緑の収穫祭 - 」が開催されました。 -

「ふるさと農林水産フェア・秋」が11月3日（祝・金）から5日（日）までの3日間、愛知県体育館（名古屋市中区二の丸）で開催され、3万1千人の入場者があり盛況の内に幕を閉じました。

このフェアは、全国有数の本県農林水産業や地域の豊かで特色ある食生活・食文化について、幅広く紹介し、県民に一層理解を深めていただくため、本年度、新たに、県、名古屋市、中日新聞社、東海テレビ放送が一緒になって開催いたしました。

開催初日には、松岡農林水産大臣も来場され、「地産地消」、「食育」、「環境」をテーマにした会場をご覧いただきました。

県内各地から地域の特性を生かした154ブースの展覧、各種のステージイベントなどでたいへん賑わいました。

1 ふるさと愛知県ゾーン

食と緑が支える豊かなあいちをめざして、日本一の農林水産物の展示やハイテク農業、菜の花エコなど様々な取り組みを紹介しました。

また、各地域の農林水産事務所が、市町村・農林水産業団体と協働・連携して、新鮮でおいしい農林水産物や丹精込めた自慢のふるさと産品の展示・販売を行いました。

2 体験や相談コーナーの設置

子どもを対象とした料理教室、しめ縄やきな粉づくり、丸太切り等の体験コーナーや食育相談コーナー、学校給食の変遷、全国のダイコンを集めた展示、食一句コンテストの掲示等もありました。



愛知県出展のディスプレイ
～食と緑が支える豊かな「あいち」～



出展者や来場者と歓談される神田知事



愛知県で育成された梨「歎月」を農林水産部長から人気の韓国ドラマ「チャングムの誓い」に出演されたキョン・ミリさんに贈呈

露地畑に「黄色い旗」

東三河地域では、温暖な気候と豊かな水を生かして、秋冬野菜の栽培が盛んです。冬キャベツ、ブロッコリー、レタスなどは田原市を中心に全国屈指の産地を形成し、首都圏を始め、京阪神、名古屋など全国各地に出荷されています。

残留農薬のポジティブリスト制度の対応策として

食品衛生法が改正され、平成18年5月29日から、食品の残留農薬の規制がポジティブリスト制に移行したことに伴い、農薬の使用基準を遵守することは勿論のこと、今まで以上に周辺の作物に農薬の飛散を防止する必要が高まってきました。このため、生産者全体の意識高揚を目的として、地域をあげて「黄色い旗運動」を展開しています。

黄色い旗運動とは

収穫2週間前になったことを知らせるため、ほ場に「黄色い旗」を立てます。

旗の立てられたほ場へ農薬が飛散しないよう、周辺ほ場の生産者は、農薬の散布には特に注意します。黄色い旗がなびくことで、風向を知ることできます。

露地作物生産者組織の取り組みとして

地域最大の露地作物生産者組織であるJA愛知みなみ常春部会（キャベツ）は、部会員全員に「黄色い旗」を配布し、部会をあげてこの運動に取り組んでいます。

露地野菜産地として

JA愛知みなみは、全組合員を対象に9月27日から29日にかけて農薬散布防止対策説明会を市内8会場で開催し、「黄色い旗運動」への理解と協力を呼びかけました。

現在、収穫間近のキャベツ、ブロッコリー、レタス、カリフラワー、えんどう等の畑に「黄色い旗」が立っています。

安全、安心な農産物を消費者に届けられるよう、JA愛知みなみ、田原市・東三河農林水産事務所渥美農業改良普及課は、連携して、この運動を展開しています。



黄色い旗が立てられたキャベツ畑

野菜の消費拡大を目的としたイベントが開催されました

「第2回日本全国野菜フェア」の開催概要
平成18年11月28日・29日の2日間、東京都千代田区の東京国際フォーラムにおいて「第2回日本全国野菜フェア」（主催 青果物健康推進委員会 後援 農林水産省）が開催されました。

この催しは、野菜生産者と実需者が情報を交換して連携を高めることを目的として開催されたもので、平成18年2月に開催された第1回目に続き今回が2回目の開催となり、JAグループ約200団体と卸売会社など青果企業約30社が出展しました。

今回は「新しい野菜の食べ方」をキーワードとして、国産野菜の消費拡大と消費者に対して野菜摂取の重要性や1日当たりの摂取目安を普及啓発することを目的として行われました。

会場にはJAグループによる「産地別生産者ゾーン」、国産野菜の料理が試食できる「国産野菜 たのしみ 楽試味コーナー」、企業・団体の展示ゾーンなどが設けられて、野菜に関する多くの情報が提供されていました。

「産地別生産者ゾーン」のJAあいち経済連のブースでは愛知産の野菜の展示が行われました。展示品目はトマト、ミニトマト、エディブルフラワー、アロエベラ、おおば、ハーブ類、キャベツなどで、来場者は各品目について担当者からの説明に熱心に耳を傾けていました。

また「国産野菜 たのしみ 楽試味コーナー」では、野菜を材料にした様々なメニューの試食が行われました。試食のメニューでは丸トマトを切ってみそ汁に入れて煮込んだ「トマトのみそ汁」や、ながいもと牛乳をミキサーにかけた飲み物など、新しい野菜の食べ方を提案し



日本全国野菜フェア会場の様子



JAあいち経済連ブース



国産野菜 楽試味コーナー

たメニューが提供され、多くの人で賑わいを見せていました。

その他にも会場内の特設ステージでは、「新しい野菜の食べ方」をテーマとして、野菜を使ったスイーツ専門店のパティシエのトークショーなどが行われました。

また、「野菜新摂取法紹介コーナー」では野菜を使った料理レシピが紹介され、家庭で簡単に料理することができる野菜の料理法が数多く紹介されていました。

2日間の入場者数は約1万2,000人で、野菜消費についての関心の高さがうかがえました。

「冬の鍋まつり」の開催概要

平成18年12月8日には大田市場で、東京青果(株)の食育イベント「冬の鍋まつり」が開催されました。

大田市場の競売場脇の特設会場には10種類以上の鍋が並び、多くの人で賑わいました。

鍋料理は調理にかかる手間も少なく、野菜をたっぷり使った鍋は手軽に多くの野菜を採ることができます。会場では、寒さが厳しくなるこれからの時期にぴったりの、いろいろな野菜を使った鍋が紹介されていました。

海水をかけて育てられた千葉産の「九十九里海っ子ねぎ」は、いわしのつみれと煮込んで提供されていました。また、トマトとブロッコリーを一緒に煮込んだおでんや、ちぢみほうれん草を豆乳で煮込んだ鍋など、様々な鍋が提案されていました。

また鍋野菜の展示コーナーでは鍋に使われる野菜が展示されていました。その中でも鍋料理には欠かせない「ねぎ」は様々な産地のものが展示されており、愛知の伝統野菜である「越津ねぎ」を始めとして、群馬産の「下仁田ねぎ」「上州なべねぎ」、茨城産の「赤ねぎ」などが展示されていました。

これらのイベントなどを通して、野菜の新たな需要の拡大と消費量の増大が期待されます。



冬の鍋祭り会場



愛知産越津ねぎ



様々な産地のねぎ

第1回愛知県加工用トマト拡大協議会の開催について

1 加工用トマトとは

加工用トマトは、トマトジュースやケチャップなどのトマト加工品の原料に適した品種のトマトです。

加工用トマトは、実が固めのうちに収穫される生食用トマトに比べ、真っ赤に完熟してから収穫されたため、リコピンはおよそ3倍、β-カロチン・ビタミンCも2倍あるといわれ、栄養が豊富です。

加工用トマトは、農家（生産者団体）と加工メーカーとの栽培契約により、全収穫量が加工メーカーに引き取られます。

国産の加工用トマトの大半はトマトジュースの原料となりますが、本県の場合は、主にトマトケチャップやホールトマトに加工されています。



真っ赤に熟した加工用トマト

2 拡大協議会開催の経緯

本県の加工用トマトの栽培は、明治時代から始められ、日本の草分け的な存在です。昭和30年代には県内で500ha以上も作付されていました。しかし、病害虫の発生や輸入品との競合などから他作物に転換が進み、栽培面積は減少の一途をたどり、現在では10数ha程度まで縮小しています。

一方、消費地と産地とが隣接する本県には、地元企業の加工メーカーが2社（コーミ株、岡本食品株）あり、この2社は、生協などの消費者団体と緊密に連携して、製品づくりを積極的に進めてきたところ、消費者団体から、本県産を原料とした製品をさらに供給するよう強い要望が出されるようになりました。しかし、加工メーカーとしては、近年の県内産地の縮小による原料不足のため、この要望に十分に答えられない状況となっています。

こういった状況を受け、加工メーカー及びJAあいち経済連は、今後、県内で加工用トマトの産地拡大を積極的に推進することとし、関係機関の連携を図るための会議（愛知県加工用トマト拡大協議会）を開催することとしました。

3 第1回協議会の開催状況について

平成18年11月24日に豊橋市内のホテルで開催された第1回愛知県加工用トマト拡大協議会には、生産者、消費者、加工メーカー及び行政等の関係者60名が参加しました。会議の開催構想からわずか2か月余で第1回協議会が開催できたのは、本県産加工用トマトの拡大に対する関係者の熱意の現れです。



この協議会の開催を通じて、産地拡大の際の課題を関係者が認識するとともに、今後の生産・消費拡大運動の推進に当たっての共通認識の醸成を図ることができました。

なお、この協議会は今後、年1回程度開催されることになっています。

【協議会の参加者】

生産者： 県内加工トマト生産者および関係農協

消費者： 生活クラブ事業連合生活協同組合愛知、名古屋勤労市民生活協同組合、みかわ市民生活協同組合東海コープ事業連合、(社)全国学校栄養士協議会など

(1) 講演会

はじめに、加藤生活クラブ事業連合生活協同組合連合会長は「農業・国産自給率問題、加工用トマト栽培問題」について講演し、この中で、食品の安全性の確保とともに、循環型農業の推進、食料自給率の向上を図るため、同連合会の取り組んでいる国産加工原料の利用促進活動を紹介するとともに、本県の実産者に対して加工用トマトの生産拡大を強く要望しました。

(2) 代表者発表

講演に引き続き、生産者団体、消費者団体及び加工メーカー2社からそれぞれ、現状報告や問題点、改善提案などの発表がありました。

生産者団体(産地農協)は、産地の現状を報告した後、高齢化している生産者のためにも、夏場(7~8月)の収穫作業の軽減対策を加工メーカーに要望しました。

このほか、病害虫の発生等により収量が不安定なため、きめ細やかな栽培指導と契約単価の向上を求めました。

続いて、生協及び全国学校栄養士協議会からも、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会と同様な観点から、国産、特に本県産を原料した製品の積極的な利用を推進するとともに、収穫体験や加工体験を通して、生産者と連携を深めてゆきたいとの意見が出されました。

また、加工用メーカーは生産者に対して面積拡大を強く要望しました。これと合わせて、収穫作業の労力軽減対策等できるものから積極的に取り組むとともに、新たな産地との契約も積極的に進めたいとの意見も出されました。

第49回全国カーネーション愛知大会について

全国のカーネーション生産者が一堂に会し、カーネーション生産技術の研鑽と交流を目的とする第49回全国カーネーション愛知大会が平成19年1月25日(木)、26日(金)の2日間、幡豆郡一色町で開催されます。

1 大会の概要

- (1) 主催者 第49回全国カーネーション愛知大会実行委員会、
日本花き生産協会カーネーション部会
- (2) 開催日時 平成19年1月25日(木)～1月26日(金)
- (3) 場 所 一色町公民館
- (4) 内 容 1日目：式典、記念講演会、品種資材展示、交流会
2日目：現地視察(一色町、西尾市、吉良町、豊橋市)
- (5) 参集範囲 カーネーション生産者、関係者 600名を予定

2 記念講演について

大会初日には、2名の講師による記念講演会が開催されます。

初めに、「アジアのカーネーション事情」と題し、米村花きコンサルタント事務所の米村所長から、カーネーション栽培が急増している中国情勢を主体にグローバルな視野でカーネーションを取り巻く諸事情の講演があります。

次に、「華と仏～カーネーション作りは人づくり～」と題し、知多四国霊場となっている尼寺菅生山大宝寺の瑞法住職による講演があります。



<昨年の香川大会の講演会の様子>

3 品種展示、資材展示等について

大会会場の一色町公民館内では、種苗会社7社によるカーネーションの品種展示と、生産資材業者5社による生産資材展示が行われます。

また、開催地の一色町は、観光PRを兼ねて、カニ汁やうなぎの蒲焼のサービス、えびせんべいなどの物産の紹介を行います。

4 現地視察について

大会2日目は、県内の代表的なカーネーション生産者の温室や、種苗会社の品種展示ほ場等が視察できる3つの現地視察コースが組まれています。

現地視察地

- | | |
|--|-------------------------------|
| 一色町： 原田文男氏の温室
(株)フジ プランツ品種展示ほ場
一色さかな広場 | 吉良町： 朝岡 勲氏の温室 |
| 西尾市： 西尾市憩の農園 | 豊橋市： 中嶋良裕氏の温室
キリンアグリバイオ(株) |

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

名 古 屋 市 中 央 卸 売 市 場 (品 目 : サ ニ ー レ タ ス)

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円 / kg)	うち愛知産	前年の主な他産地 (上位 3 産地)
18年実績	174	128 (74%)	395	368	静岡 (11%) 兵庫 (7%)
19年見通し	170	-	250	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
気温が高い日が続き、朝の冷え込みが例年に比べ少ないため、色付きがよくないものも一部で見られるが生育は順調である。1月後半から2月上旬にかけては入荷に切れ間が見られる。 1月の入荷量は前年に比べわずかに減少し、価格は前年に比べ大幅に減少する見込み。			サニーレタスはサラダ等の用途が主となり料理方法に限られる。近年はレタス以外の野菜を主とするサラダも多く、サニーレタスの消費が減少している。産地は需給のバランスを考慮し、価格が低迷しないよう生産して欲しい。また、出荷前にしっかり水切りをして品質の低下を防ぐよう努力して欲しい。		

東 京 都 中 央 卸 売 市 場 (品 目 : カ リ フ ラ ワ ー)

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円 / kg)	うち愛知産	前年の主な他産地 (上位 3 産地)
18年実績	293	32 (11%)	246	282	福岡 (40%) 徳島 (14%) 熊本 (12%)
19年見通し	240	-	250	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
東京、新潟が年内でほぼ終了し、福岡、徳島、熊本などが中心の入荷となる。各産地とも作付面積は前年並みか減少傾向である。暖冬傾向で概ね生育は良好であり、順調な入荷が見込まれる。 入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格は前年並みの見込み。			カリフラワーはかつては一般の家庭で多く消費されていたが、ブロッコリーの消費の拡大の影響もあり作付面積の減少傾向が続いている。しかし業務筋からの需要は堅調であり量販店でも安定供給されれば定番商品として扱ってもらえるので、作付面積の維持と安定出荷をお願いしたい。		

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
		全 国 平成17年 = 100				
		愛知県 平成17年 = 100				
全 国	18年 6月	100.4	105.6	112.8	100.2	101.1
	7月	100.1	100.8	101.3	100.7	101.4
	8月	100.8	119.1	111.0	101.1	104.1
	9月	100.8	112.6	111.0	101.3	103.4
	10月	100.8	106.1	110.2	101.4	102.5
愛 知 県	18年 6月	100.4	106.1	111.6	99.3	101.6
	7月	100.2	98.9	105.5	101.0	103.2
	8月	100.8	119.4	109.9	100.7	105.6
	9月	101.0	111.3	108.9	98.6	103.8
	10月	100.9	107.1	101.5	101.6	103.6

項目 年月		農業物価指数 (平成12年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
17年平均		99.7	91.9	104.7	90.7	109.3
18年	6月	101.0	92.8	113.7	106.5	109.6
	7月	93.7	87.7	103.4	94.5	110.3
	8月	102.8	92.0	109.1	105.6	107.6
	9月	104.9	91.2	119.2	93.3	109.0
	10月	100.0	89.0	111.0	93.9	108.2

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一産、 「コヒカ 」以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年 6月	2,264	196	246	619	337	276	163	387	202	466	562	174	573
7月	2,255	151	181	563	280	291	160	374	203	437	523	193	562
8月	2,239	197	291	665	497	291	229	484	214	564	619	198	-
9月	2,247	171	228	655	396	303	178	385	219	540	677	195	-
10月	2,290	175	174	676	368	279	146	367	220	487	758	215	-
品目 単位 年月	みかん	グレフ イル ブ ツ	オレン ジ	いちご	バナ ナ	キ ウフ イル ツ	緑(せ 茶ん 茶)	カ ネシ ン	き く	パ ラ	豚(口 肉 ス)	牛(口 肉 ス)	ま ぐ ろ
	1 kg	100g	1 本		1kg								
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年 6月	-	379	404	-	244	767	617	171	168	312	226	781	491
7月	-	316	406	-	243	699	599	166	157	295	234	827	498
8月	-	335	409	-	253	724	599	156	175	299	238	819	497
9月	1,084	310	403	-	255	755	599	154	181	301	229	736	522
10月	483	306	416	-	265	684	603	149	157	295	230	813	497

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 403
平成19年1月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417